

2018年度第1回町田市総合教育会議  
議事録

- 1 開催日 2018年7月27日
- 2 開催場所 3-1会議室
- 3 出席委員
- |         |         |
|---------|---------|
| 市 長     | 石 阪 丈 一 |
| 教 育 長   | 坂 本 修 一 |
| 教 育 委 員 | 佐 藤 昇   |
| 教 育 委 員 | 森 山 賢 一 |
| 教 育 委 員 | 八 並 清 子 |
| 教 育 委 員 | 坂 上 圭 子 |

4 市長及び町田市教育委員会教育長の署名

市 長

教育長

- 5 出席事務局職員
- |                    |         |
|--------------------|---------|
| 政策経営部長             | 小 島 達 也 |
| 経営改革室長             | 水 越 祐 介 |
| 政策経営部次長兼企画政策課長     | 田 中 善 夫 |
| 子ども生活部長            | 三 橋 薫   |
| 文化スポーツ振興部長         | 能 條 敏 明 |
| 文化スポーツ振興部次長兼文化振興課長 | 小田島 一 生 |
| 学校教育部長             | 北 澤 英 明 |
| 教育総務課長             | 田 中 隆 志 |
| 教育総務課担当課長          | 高 野 徹   |
| 指導室長兼指導課長          | 金 木 圭 一 |
| 指導課統括指導主事          | 辻 和 夫   |
| 生涯学習部長             | 中 村 哲 也 |
| 生涯学習総務課長           | 佐 藤 浩 子 |
| 生涯学習総務課担当課長兼総務係長   | 早 出 満 明 |

6 議題

次期町田市教育に関する総合的な施策の大綱の策定について

7 公開又は非公開の別 公開

8 傍聴者数 1名

9 議事の概要

### 【午後3時30分開会】

○田中企画政策課長

ただいまから2018年度第1回町田市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、市長からご挨拶をお願いいたします。

○石阪市長

お暑い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。次の総合的な施策を定めるにあたり、教育についての考え方を共有できればという趣旨で開催させていただいております。

この先の社会を想像することは大変ですが、今の子どもたちが活躍する15、20年先のために、どういった準備をすべきか、あるいはどういう将来に変えていくかというのは、子どもにとっては非常に重要なことです。

我々大人は将来、活躍するであろう子どもたちに対して今、何をすべきかという理論や方向性を決めておかなければなりません。現在の社会を前提とした教育というのはあまり意味がありません。AIやIoTが将来どの程度になるかという想像をしなければなりません。

もう1つ、再来年の2020東京オリンピック・パラリンピックでどういう経験をしてもらうかということは、実は大事なことです。こういったことから、来年からの教育に関する総合的な施策について、話ができればと思っております。

○田中企画政策課長

事務局から今日、配布した資料についてまず確認させていただきます。

(省略：配布資料の確認、閲覧方法について)

引き続き議題に移ります。本日は次期町田市教育に関する総合的な施策の大綱案について、皆様に協議していただきたいと思います。石阪市長、よろしくお願いたします。

○石阪市長

それでは、議題に移りたいと思います。

この先、産業や雇用社会はかなり変化していくので、その時代を生きる子どもたちのために、私たちはそういう時代を想像しなければなりません。そのために、様々な施策を有している教育委員、教育委員会、市長などが目線を揃える必要があると思います。私の言う、「未来に向けた人づくり」が総合教育会議では一番大きな狙いだと思います。今回は大綱案をまとめましたので、まず説明をさせていただきます。

#### ○田中企画政策課長

次期町田市教育に関する総合的な施策の大綱案について、概要を説明します。

ご協議いただく次期大綱案は 2019 年度から 2023 年度までを計画期間とし、構成は学校教育、生涯学習分野、子育て、文化、スポーツ分野となっています。

そして大綱の構成は、基本理念を「誰もが自分らしく夢を描き、叶えるまちへ」とし、これを基に 4 つの基本方針を掲げました。この基本方針について 1 つずつ協議していただきます。

基本理念については、基本方針の協議の後、最後にご説明いたします。

#### ○石阪市長

4 つの基本方針の「I、子どもが自ら未来を切り拓く力を育む」についてご協議いただきたいと思います。

現在、第 4 次産業革命と言われ、実際にいろいろなものが変わっています。情報やアイデア、ハイテク力などが社会を動かしていく力になり、機械やエネルギー、石油といったものがなくなっていっています。また、知識、情報、技術などが非常に早く変化し加速していくのが、今の時代の特徴だと思います。

この時代は他の会社の技術や人の意見をどう理解し、それをどう自分の会社なり自分の考え方で活かしていけるかということが能力なのだと思います。私はこの能力が、相手の言うことをどこまで理解できるか、あるいは理解しようとするスタンスをしっかり持っているか、また、自分の意見や考え方をしっかり伝えられるかという対話力だと認識しています。そしてそれは大事なことです。

もう 1 つは、どれだけ遊びというものが確保できるか、ということも大事だと思います。また、理念で夢を描くと言っていますから、オリンピック・パラリンピックのように具体的な夢の形として見えていることも大事です。

そのようなことを含め、自ら未来を切り拓く力を育むということ、具体的に我々としてはどう考えるべきか、例を挙げて議論したいと思います。

#### ○田中企画政策課長

それでは、基本方針を策定したバックグラウンドやデータを示した資料 2 の

説明をいたします。

表の一番上に基本理念がございます。これは現在策定中の教育プランとの整合が書かれています。その下の黒丸の方針には、後ろに①、②といった数字が入っております。これは資料3のバックデータの番号と整合しています。

まず資料3の④のグラフは、子どもの様々な体験活動の回数が減少していることを示しています。このことから基本方針1の2つ目の要素、「幼児期からの遊びなど、様々な体験活動の機会を充実させる」を挙げました。

次に、スマートフォン等のデジタル機器と子どもたちに関するデータですが、こういった機器を使用する割合が増えています。利便性が高まり、可能性が広がりましたが、一方でその弊害についても指摘されており、体験活動の機会の減少の要因の1つとされています。また、幼児期からの体験活動を含む教育活動がなされると、その後の経済状況や生活の質に対してプラスに働くという研究報告もございます。

最後に、オリンピック・パラリンピックに関する内容ですが、多様性に触れ、世界を感じ、スポーツの素晴らしさを体感するとともに、ふるさと町田を改めて省みる良い機会です。自らのアイデンティティを確立したグローバル人材の育成や、地域への愛着と誇りを育みながら、身近な課題を解決していく学びの機会となります。

#### ○石阪市長

それでは、今の基本方針Iで3つの姿を示しておりますが、皆さんから意見をいただきたいと思います。

#### ○八並教育委員

最近のデジタル機器の発達には目を見張るものがあり、スマートフォンを1人が1台持つようになってきました。こういった状況において、個人の発した情報の取り上げられ方や、情報の真偽性といった情報モラルについての教育、また、ゲームなどの疑似体験に満足してしまうこと、この2点が大変気になります。

これからはAIなどを使った効率的な仕事と、より人間らしさが求められる仕事の二極化が進むと言われております。まずは顔を合わせて挨拶をすることや、一緒に遊んだり、喧嘩をし、仲直りしたり、といった直接対話を中心とした、学校や家庭や地域での人と人とのふれあいが、子どもたちの心を育てる一番重要なことと思います。そういった中で、学校教育における集団活動は、子どもたちが学ぶこと、お互いを思いやること、また1つの目標に向かって努力することなど、非常に大きく成長できる場になっており、重要になってくるのではないかと思います。

そして、町田市は身近に自然が多く残る地域です。これを活かし、本物の自然に触れることは、自分が普段見ているものやネットの世界以上の大きな世界があるということを感じることができます。

さらに、新しい社会に対応したアイデアを生むためには、過去に自分がどういった経験をしたかだけでなく、自分がどうなりたいか、どうしたいかといったことから、様々な工夫やアイデアを見つけられると聞いたことがあります。

子どもたちの新しい発想を受け止められる教育現場や家庭環境があると良いと思います。

○石阪市長

ありがとうございました。

○佐藤教育委員

基本方針Ⅰの「子どもが自ら未来を切り拓く力を育む」は、教育委員会が検討している教育プランの基本方針と合致しており、市長部局と教育委員会が目線を合わせて教育施策に取り組めると感じています。

そして、2年後に開催される2020オリンピック・パラリンピック東京大会を、この基本方針Ⅰを実現する絶好の機会とすることは、学校教育にとっても大きな力、励みになると思います。特に、現在マラソンの日本代表候補に挙げられている大迫選手や関根選手は、町田市の小中学校で学校教育を受けた選手であり、代表選手に決定すれば、町田市の誇りとして子どもたちも大いに盛り上がると思っています。

前回の東京オリンピックにおいても、女子バレーボールが金メダルを獲得したことから、その後、ママさんバレーが盛んになりました。そのママさんについてきた子どもたちがバレーに興味を持ち、町田市の子どものバレーが発展したことが思い出されます。今回も様々な種目のトップアスリートを目にし、子どもたちや市民が様々なスポーツに触れるようになると思います。2020東京オリンピック・パラリンピックを契機とした施策に力を入れることを願っています。

○石阪市長

子ども時代の経験として、オリンピックなどは非常に有用です。生身の人間が目の前を馬のように走っていったり、腿から汗が滴り落ちたりというのを見ると大きな衝撃を受けます。また、パラリンピックや事前キャンプも間近で見て、体験できるので非常に重要です。さらには、スポーツを通じて世界の人たちと触れられるというのも非常に意味があると思います。

先程の八並委員の話にあった、ネットの世界が自分の頭の中のかなりの部分

を占めていくという話は私も心配しています。これからの教育の中で、直接対話をするを学校教育の中で感じてもらうことが一番大事だと思います。

それでは、次の基本方針のⅡについてお話をいただければと思います。基本方針のⅡは、「多様なニーズに応え、学びの環境を整える」としており、どれだけのチャンスや機会があるかということで、基本方針Ⅰを少し掘り下げた内容です。

1つは、世界全体や教育環境がどんどん変化していく中で、教育に携わる側として、それに対応していく場を作っていかななくてはいけないということ。そしてもう1つは、子ども1人ひとりそれぞれが家庭や地域など違う環境の中で、機会を均等にしたり、確保したりすることが市であり、教育委員会の仕事だと思います。こういったことから、基本目標Ⅱは様々な境遇や立場にいる子どもに応えるための方針や考え方を示しています。

#### ○田中企画政策課長

基本方針Ⅱの背景となるデータについてご説明いたします。資料3の㉔の表をご覧ください。これは家庭での子どもをめぐる課題の複雑化を示すものです。社会状況の変化により価値観や生活様式が多様化し、子どもをめぐる課題の複雑化、多様化が進んでいます。このことから、「家庭環境や障がいの有無などに関わらず、学ぶ機会と居場所を提供するとともに、1人ひとりのニーズに即した様々な選択肢を提供する」を掲げました。

次に子ども食堂に関するデータをご紹介します。資料3の㉔番の表をご覧ください。子ども食堂が近年急増し、本年4月現在、全国で2,200ヶ所を超え、町田市でも6ヶ所が確認されております。1人親世帯の子ども、貧困家庭の子どもなどが利用しております。また、子ども食堂は様々な背景を抱えた子ども、またその親や近所の高齢者も利用しており、様々な人の居場所となっております。

#### ○石阪市長

芹ヶ谷公園の冒険遊び場には、行くところがない、お金がない、悩みを打ち明ける場がない、などといった子どもが来るといった話を聞きました。冒険遊びということだけでなく、居場所になっているのかなと思いました。

教育委員の皆さんから、このⅡについてお話をいただければと思います。

#### ○佐藤教育委員

資料3の㉔に経済上や成育上の困難を抱えている家庭のデータが示されており、困難を抱えている家庭が23.7%に及んでいることが、とても気になります。

経済上の困難を抱えている家庭を合わせた 8.9%と比べてみても、成育上の困難を抱えている家庭が大きな割合を占めており、大きな課題だと思います。この内容を分析し、何らかの支援が必要となるかもしれません。

子ども食堂はそもそも経済的な理由による栄養不足や、孤食などのフォローが目的として始まりました。ですが、現在は運営の仕方も様々で、子どもの居場所づくりという新たな考え方もあり、今後の展開に注目しています。

それから、約9%の家庭が経済上の困難を抱えているというデータですが、私の経験から申し上げますと、経済的に苦しい家庭であっても、立派な生徒が多くおりましたし、裕福なのに教師の手を煩わせる生徒もおりました。したがって、経済上の困難を支援することよりも、保護者や家庭の子育てに対する姿勢が原因になっていると感じております。

#### ○森山教育委員

子どもの成育困難な家庭環境においては、経済上は問題がないが子どもと触れる機会が少ないことや、子どもに対する義務を全うすることが、一般的な保護者よりも低いという傾向があります。子どもが大人になるために必要な力がついていない状況が見られます。

#### ○石阪市長

ありがとうございました。お金はあるが、親が子どもに関わらなかつたり、子どもは自分に対して肯定的な自覚が持てなかつたりすることが、かなり大きな問題かなと思います。これは学校の成績にも跳ね返ってきます。

#### ○森山教育委員

私からは、教師の働き方を中心にお話をさせていただきます。最近では教師に求める役割が大きくなり、そこに課題があると思います。

勤務時間の長さは、1週間に53.9時間となっており、OECDの調査3カ国平均38.3時間と比較すると、日本は勤務時間が長くなっています。学校の業務は、学習指導や生徒指導、進路指導、学校運営など、多くの関連業務の範囲が曖昧で、献身的な教師像を前提として学校の運営がされています。しかし、この体制は良くありませんし、いずれ限界を迎えると思います。

学校は学校、教育委員会は教育委員会、国は国なりの業務の明確化、適正化が行われなければなりません。それぞれのレベル、ステージで適正化について検討していく必要があります。

各学校は新しい時代の教育に向けて、持続可能な学校の指導体制を整備していくというわけですから、思い切った業務精選が必要です。

例えばルールを 1 冊にまとめて、業務を明確にし、それぞれの学校が動きやすいような工夫をすることや、非常勤の先生やコーディネーター、ボランティアの方々を最大限に生かし、再構築をしていくなど、こういったことを今後考えていく必要があると思います。

現在、中教審でも働き方改革に取り組んでおりますが、学校独自の地域性や状況、生徒児童の実態に応じて対応していくことが必要だと感じています。厚生労働省の「働きやすく生産性の高い企業・職場表彰事例集」にヒントがあるかもしれませんが、学校だけの問題ではありませんので、様々な視点で多面的に検討していく必要があります。

#### ○石阪市長

子どものことに関しては、全てを学校が受け止めるべきと皆が思っているように感じます。どこまで先生が担うべき公務なのか際限がなくなっており、長時間労働に繋がっていると感じました。

#### ○佐藤教育委員

学校の働き方改革を総論で議論しても、50 分を 49 分に縮める話ではできても、50 分を 25 分にするのは難しい。最も大事な、教員と子どもの触れ合う時間がどんどん狭まると、子どもを巻き込んだ悪循環が生じます。例えば教員を増やしたり、授業を減らしたりするといったことを、国や東京都が抜本的にやらないと、総論を話しているだけでは厳しいというのが実感です。

#### ○石阪市長

ありがとうございました。

それでは基本方針Ⅲ「地域ぐるみで子どもに関わり支える」について協議します。先程、先生の負担に際限がないとの議論がありましたが、何を分担すべきで、誰に担ってもらおうのかと言えば、地域で支える部分だと思います。

私の認識では町田市は地域の人が学校に大分関わっていて、うまくいっている部分があると思います。このほか、学校の外の団体や企業、大学などに関わっていただいています。基本方針Ⅲは現状として、一定程度の評価を得られる分野だと思っています。

#### ○田中企画政策課長

基本方針Ⅲには、社会状況の変化により、子どもを支援する環境が弱体化していることから、「家庭・地域・学校がそれぞれの役割を果たしながら連携・協働を深め、子どもの育ちを支える」を掲げました。

○石阪市長

教育委員の皆さんとしてはどんな考えをお持ちでしょうか。

○八並教育委員

町田市は全小中学校にてボランティアコーディネーターやボランティアの方々に学校教育の支援をしていただいております。まさにこの基本方針Ⅲの地域ぐるみで子どもたちに関わり支える状況であると思います。この場を借りて、同じ思いの皆様へ改めて感謝申し上げたいと思います。

特に「新まちとも」については、遊びだけではなく、学習についても支援していただいています。子どもセンターと同様に、放課後の子どもの居場所が増えていると実感しています。これからは年齢や地域など、幅広くボランティアの方に携わっていただくような工夫が必要です。

○石阪市長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

○坂上教育委員

私は、家庭の教育力についてお話ししたいと思います。家庭は、子どもたちの成長に不可欠な最も基盤となる場所ですが、近年の家庭環境は様々で、基盤の家庭そのものが、不安定な状況になっていることが多々あります。これは、家庭教育の低下の原因になっていると思います。

家庭の教育力を高めるために、保護者の皆さんは交流の場所や機会を求めています。そこで、私は1つの解決策としてPTAでできることはないかと考えています。PTAは本来、保護者同士の交流の場でもありますので、今の時代に合った活動や方法で、保護者同士の交流の場としていけたらと思います。また、行政側も、これらの保護者の集まりを任意団体だからと捉えるのではなく、みんな楽しく繋がり、活動ができるようバックアップしていただけたらと思います。

○石阪市長

ありがとうございました。時代の変化にどう対応するかという、一番大きなテーマを抱えているのはPTAでありますので、多様なあり方があって良いと感じています。

○八並教育委員

私も保護者の交流の場所や機会として、PTAの活動に非常にマッチしていると感じます。しかし、実際のPTAの活動を見ると、そんなに多くの参加者がいなか

ったり、それぞれの保護者が求めるニーズが違ったりといったことがあります。時代背景に合わせて、様々な活動の仕方を考えなければならないと改めて感じました。

#### ○佐藤教育委員

私は、積極的な姿勢の保護者が減っており、PTA にあまり期待がかけられないと思っています。子どものために時間を使うという価値観を持った保護者が参加していく体制を、今後とれるかどうか疑問です。

一方、65 歳以上の大人がもっと子どもと関わる仕組み作りができないかなと思います。仕組みを作れば、元気な高齢者が子どもと関われる場面をもっと作れるのではないかと思います。

#### ○森山教育委員

私も今の体制では難しいと思います。時代的な背景が大きく変わり、地域のコミュニティが弱体化し、家庭の状況も変化しています。特に親が変化してしまっていることが、学校に最も影響を与えています。

高齢者などの学校への関わりを考えていかないといけません。親だからどうだとかというような形は、崩壊してきています。

2030 年には 20 歳代、30 歳代は 2 割減少し、60 歳以上が占める割合は 3 割を超えます。そういう元気な高齢者の方々のネットワークを考えることが、今後の町田市の教育のサポートとして可能性があると思います。

#### ○石阪市長

高齢者の方々は活躍できる要素が結構ありますし、活躍をしたいと思っている人もいます。ここは PTA ではなく、地域の人も良いかもしれないといった振り分けをしたほうが良いと思います。

それでは次のテーマに行きたいと思います。基本方針Ⅳ「生涯にわたり学び、活躍できる環境を整える」です。「学び」の次に「活躍できる」という言葉を入れてあります。この活躍できる環境というところが大事なかなと思います。

#### ○田中企画政策課長

基本方針Ⅳの背景です。高齢化、長寿化が進む中で活力ある社会を実現するためには、誰もが社会の担い手として活躍し、また、それを支える学びの場の確保が必要となることから、基本方針Ⅳの要素として、「学び続け、学び直すことができる機会を充実させ、一人ひとりが生涯にわたり活躍することができる環境を整備する」と掲げました。

○石阪市長

様々な知識、技術、教養を学び、それを活用し、活躍できるかどうかのポイントです。それでは、委員の皆さんからお話をいただきたいと思います。

○坂上教育委員

データを見ますと、多種多様な技能を習得されている方が多くいることが分かります。しかし、この機会がなかったとされている方も 36%います。この機会がなかったとされている方のニーズを聞き出し、講習会の内容や時間、そして告知の仕方などを見直すことが必要だと思えます。この先、寿命もさらに延びてくることが予測されていますので、より幅広い分野の学びの場があることと、生涯にわたって学ぶことが大事なことになると思えます。

○石阪市長

ありがとうございます。スキルを身につけると、参加の意欲が増えます。やはり、もっとチャンスがありますよ、ということを知らせなければと思います。

○坂本教育長

医療体制の充実や、生活水準の向上などにより、人生 100 年時代の到来が予測されており、退職後にボランティアなどで地域や社会の課題解決のために活動することが、より一般的になっていくと考えられます。

そうなりますと、義務教育で身につけられる資質、能力に加えて、人生 100 年をより豊かに生きるための自己能力の向上や、地域社会の課題解決の活動に繋げていく生涯学習の必要性がより高まります。

このことから、習得した知識や技能を生かし活躍できる機会の提供や、仕組みづくりを進める必要があります。そのための具体的な施策としては、市民の皆様と協力して企画運営する学習事業や、イベントや展覧会、刊行物の発行などによって学んだ成果を生かせる機会を創出すること、または、市役所の各部署や公益団体、NPO 法人などとの連携によって、学習者とその学習成果を生かす場とのマッチングなどを行っていくことなどが考えられます。

○石阪市長

基本方針の I からIVについて議論しましたが、最初の理念について議論をしていません。意義のある理念にしたいと思えます。

一番のポイントである自分らしくという理念の次に、夢を描くだけでなく叶えるということがもう 1 つのポイントだと思えます。また、これが教育の一番

の根幹になっていると思います。

それでは、最近の中学生は自分の15年、20年先のイメージを持っているのかどうか、この辺りを皆さんのご経験からお聞かせいただけたらと思います。

#### ○佐藤教育委員

高校受験の面接練習で、私は面接官役をやったことがあります。どうしてこの高校を目指しているのか、高校を卒業したらどうするのですか、という質問をしますが、生徒からは返答がないのです。

小さい子どもほど夢を持ち、描いていて、年齢が上がるに従って、その夢がしぼんでいくように思います。子どもは子どもなりに、いろんな夢を描こうとしたり、個性を活かそうとしたり、能力を磨こうとしたりしていますが、結局、勉強に押しやられてしまい、夢が潰されている気がします。

学校の先生はせめて夢を描かせようとはしますが、最近は学力向上のために圧力のようなものがあり、学校も夢だとか志とか言っていられなくなっています。そのような時代の流れが、私はとても気になっています。

市長がおっしゃるように、夢を描いて進んでいくような、そういう市民、子どもが育つといいなと思います。

#### ○八並教育委員

夢を持つことについてですが、私たち大人が夢を持って子どもたちに接しているでしょうか。周りの大人たちにも夢があるということ、先生が君たちの未来はこんなに明るいものになるよ、ということ伝えていくことが大切です。

大人はこんなに楽しんで人生を生きていて、僕たちももっと楽しんでいきたいなど、子どもが思えるような社会になると良いと思います。

#### ○坂上教育委員

幼稚園の頃の無限に広がっていた夢が、歳を重ねるにつれて、できる、できないが自分の中で判別されていくのだと思います。そこで親があまり現実を突きつけずに、なれるかもしれないね、そういう可能性があるかもしれないね、と言って広げてあげればいいのですが、その情熱を勉強にと言ってしまう親の立場や気持ちも分かります。

しかし、これからの世の中は、私たち大人が想像もつかないことができるかもしれない未知な未来になると思うので、そこはやってみなというふうに言える大人でありたいと思いました。

#### ○森山教育委員

この基本理念の大前提は学ぶことと、自分の人生や社会との繋がりを実感させることだと思います。発達段階でいろいろなことを考えて実感することが重要です。子どもが豊かな体験から感性を育んだりすることが土台にならないと、夢を持ちなさいと言っても、それは難しい話です。

将来の夢や目標を持っている児童、生徒の割合はデータでは横ばいで、なかなか上がりません。加えて子どもの自己肯定感を国際的に比較すると、日本は5割、アメリカは8割、中国は9割、韓国は7割となっています。日本の子どもは、肯定的にものを考えなかったり、現実主義だったり、控えめだったり、日本の特徴はあると思いますが、もう少し日本の子どもの自己肯定感が高まらないと、夢を描いて、叶えるという方向に進んでいきません。

ただ夢を持ちなさいというのではなくて、自ら考えるという姿勢を培うことが教育として重要だと思いました。

#### ○石阪市長

ありがとうございました。教育大綱はこれから様々な議論をしていきますが、本日、委員の皆さんからは半分以上、問題提起をされたような気がします。市長部局、教育委員会、一緒になって教育大綱をさらに磨いていきたいというふうに思います。秋に市民意見募集を実施する予定です。その後、年が明けたところで教育大綱を確定したいと思います。これらもよろしく願いいたします。

お疲れ様でございました。ありがとうございました。

#### ○各教育委員

ありがとうございました。

#### ○田中企画政策課長

これを持ちまして、2018年度第1回町田市総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。

**【午後5時00分開会】**